

手段と目的

時代の波だろうが、最近、屋上菜園関係のお話が増えてきている。都市部の田園都市化、農作業の大衆化を目指して活動している私たちにとってうれしい傾向だ。この流れを一過性のものにしないで持続させていくためには、屋上菜園活動の目的を明確にすることが大切ではないかと思う。何のために、どういう効果を期待して、建物の屋上を活用して野菜づくりをするのか。商業ビルであれば集客・売上向上、マンションの場合は完売率・稼働率のアップ、事務所ビルの場合は働き方改革・社員満足度の改善、老人ホームであれば入居者の生き甲斐づくり、個人住宅であれば新鮮な野菜で食卓を彩るとか、家族の共同作業の機会づくり…それぞれに相応しい目的を設定することができるのではないか。

人口密度が高い都市部では農薬を使わない有機栽培とか自然栽培を選びたい。そして折角栽培するのだから、美味しい野菜が沢山取れるようにしたい。JVEECは、屋上で美味しい有機的野菜を沢山取る技術をほぼ確立している。野菜栽培は言ってみれば手段と考えたらどうだろうか。目指すべきは目的の実現ということになる。今後重要になるのは、多様できめ細かい目標設定と、設定した目的をどこまで達成できたか、その物差しづくりかもしれない。大事なことは、野菜栽培の過程を通じて得られる「さまざまな体験価値」だ。「都会にいながら、ときどき農的生活」が、これからのライフスタイルになるのでは。

代表理事 阿部義通

1月の活動報告

◇遊心「屋上菜園で子育て支援」部会◇

遊心+JVEEC「屋上菜園で子育て支援」第1回目講習会

親子が都会の真ん中で土に触れ野菜を育てる活動。子供の野外活動を支援する「遊心」と「JVEEC」のコラボです。

1月27日の第1回目は「お野菜はどんな土で育つ？」阿部代表が子供たちに野菜を育てる土を説明しました。「フカフカの土」「生きている土」その土に野菜が根を張り、成長してゆくの説明。遊心の峯岸代表が子供たちを集め、みんなに土になってもらい、自ら根になって、土の中に植物が根を張るのを熱演しました。そのあと屋上に上がり、出来立ての屋上菜園の土を実際に触りました。寒風の中、子供たちの真剣な姿、小さな屋上の菜園ですが良い体験になったようです。第2回目は2月17日「植物のごはん、『肥料』のお話」。子供たちがワクワクできるといいですね。



子ども向けに土についてお話する阿部代表



GBFを使用したクッキー

◇国産スーパーフード部会◇

食こそ健康の底力

「グリーンバナナスターチ」は「グリーンバナナ・フローラ」(以後GBF)と名称変更します。グルテンフリー・アドバイザー協会の中村由美子代表理事(以下GFA協会)にご協力をいただくことになりました。グルテンは欧米では腸を傷つけ不耐性やセリアック病と呼ばれる免疫の過剰反応を引き起こすといわれています。GFA協会は小麦などのグルテンを使わない食材の開発から、グルテンフリーな生活のインストラクター養成まで、幅広く活動している団体です。GBFもグルテンフリーな食材。小麦粉の代わりに使用していただくなど、製品開発をGFA協会と行っていきます。GBFブレッドやナッツ入りクッキーなどを作っていただき試食しました…う～ん、美味しい！マイルドな食感！バナナ風味もほんのりと。これから新しい製品を開発していきます。(伊藤)

1月の活動報告つづき

◇三井住友海上火災(株)屋上菜園部会◇ 2018年メンテナンス契約について

1月12日、三井住友海上火災保険(株)よりJVECに対して、2018年度のメンテナンス契約の発注がありました。2018年度は蕎麦の栽培、雑草対策、ネズミ対策、有機土壌づくりを行うことになりました。

(庭野・阿部)

◇エゴマ部会◇ 川本町レポート

島根県の川本町では、厳冬期を迎えました。さて、おかげさまで、昨年私のエゴマの師匠である竹下ご夫妻が、「人生の楽園」というテレビ番組に出演されたことから、えごま油の注文を全国からいただきました。そこでお話を聞くと、国産にこだわられていて、健康志向が高い方が多いという印象を受けました。そういった期待に応えていくためにも、土づくりから有機的栽培で、品質の良いえごまを栽培していかなければならない思いを新たにしました。

(柴原)

◇北千住ルミネ屋上菜園部会◇ スナップエンドウの誘引

数日前に降った記録的な量の雪が残る中、北千住ルミネの屋上菜園ガーデンではスナップエンドウの誘引を行いました。屋上のスナップエンドウは既に花やつぼみをつけており、中には早くもさやができていたものもありました。このまま成長を続けると茎が土の上を這ってしまい健全な生育が望めなくなってしまうので、作物を支柱に固定して上方向への成長を促す誘引を、すべてのスナップエンドウに対して行いました。誘引はまず、スナップエンドウがつるを絡める支えとなる部分の用意から行いました。今回は、ある程度間隔を開けることで収穫がしやすくなるよう、既成品のネットの代わりにひもを支柱に渡して支えとし、そこへスナップエンドウを固定しました。この日、屋上は一面の雪景色となっていました。スナップエンドウの小さなさやに、春が一步步近づいていることを感じるひと時でした。

(藤掛)



スナップエンドウ



畑一面
雪景色

JVEC プロジェクト & 関連ニュース

1. 地方再生 (山梨県富士川町)

第二の故郷づくり

1月から山梨県の関係者と意見・アイデア出しを続けています。従来の観光は、観光施設・宿泊施設・土産物店と限定された関係でしたが、最近では、地域の自然・産業・文化・行事などの日常生活を観光資源として最大限に活用する動きが出てきています。JVECの地域再生は、都市部のファミリーや高齢者に地方で幸せな観光体験、さらには定住して頂くことを目的としています。そのための鍵を握るのがコミュニティナビゲーターです。地元の若い人達に活躍してほしいと考えています。富士川町で最初のモデルケースができるといいですね。

(阿部)

2. JVEC 式屋上菜園野菜栽培研修会 2月~4月 月1回[計3回]

JVEC制作の栽培マニュアルをテキストとして、希望者を対象に研修会を開催します。

講師は会員の庭野先生と阿部先生。研修受講者には、JVECより「JVECベジタブル・マスター」の認定証を授与します。詳細は追ってご案内します。

今後屋上菜園が増えていきます。それに対応するためにJVECの中で栽培作業ができる人、栽培指導ができる人を養成・確保することが急務になってきました。

(阿部)



新大阪GHビル屋上菜園日記



今年の冬はカブや水菜・小松菜・レタスなどの葉物収穫から始まりました。葉物はやはり、あっという間に終わってしまいました。春には、アスパラが次々によきにょぎと生えてきました。(阿部さんの畑からの移植です) ありがとう、又会えましたね。

じゃがいもやイチゴの収穫、なかでも紫玉ねぎはとて立派なものがたくさん採れました。(今までの7、8年中で最高です。)

夏になると、桃太郎やアイコ・ペペなどの様々な種類のトマトや、シシトウ・万願寺とうがらし、ピーマン・パプリカ、ナス、キュウリなど緑や赤、黄色の色とりどりの野菜がたくさん採れました。(本当に長い間収穫できてびっくり) 小玉スイカもチャレンジしましたが、鳥よけネットをつけるタイミングが悪く、少し食べられてしまいました。

今年チャレンジする際は、鳥対策を万全にしたいと思います。

秋には、さつまいもやキクイモがたくさん採れました。

ただいま冬は、レタスなどの葉物、イチゴ、玉ねぎを植えています。今年の冬は急激に冷え込んだこともあり、生育状況が遅い感じがありますが、工夫を重ねながら様子を見ていきたいと思います。

(リーダー 山本真由)

□ 2月2日(金) 理事会
上半期の振り返りと下半期に向けて

□ 2月17日(土) 遊心+JVEC「屋上菜園で子育て支援」第2回講習会
植物のごはん、「肥料」のお話

2月の予定

☆「屋上菜園物語」も
第4話までアップされています。

JVECホームページは毎月更新されています。会員の皆様は是非ご覧ください。→<https://www.jvec.jp/>